



阪神・淡路大震災時の学生ボランティア活動



兵庫県佐用町での学生ボランティア活動

地域に根ざし 人に学ぶ共生的人間力

— 震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生活動支援 —

神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員

神戸大学学生ボランティア支援室コーディネータ 藤室 玲治

取組の背景と概要

都市安全研究センターとは？

大学の震災教育と課外活動支援

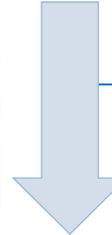
現代GPから生まれた学生支援GP

「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力」概要

都市安全研究センターとは

3

- 阪神・淡路大震災の翌年1996年に設立
- 防災の研究教育のための学内共同施設
- 体系的かつ継続的な **震災教育**



現代GP「震災教育システムの開発と普及」

- 災害文化を伝え・創る学生の集い
2007年度に8回実施

学生のニーズ・要望

震災教育における学生ボランティア活動の重要性

大学の震災教育と課外活動支援

4

正課領域



正課外領域

総合教養科目「阪神・淡路大震災」

前期	後期
住宅被害	防災・減災の国際活動
人的被害	災害情報システム
理学的な視点から震災	災害救急医療とDMAT
地盤	災害弱者への救援
ライフライン、交通網	心のケア、PTSD...
産業被害	社会基盤と住宅の耐震化
救助と消火	災害医療と公衆衛生
避難経路と避難所	経済学的視点から見た阪神淡路大震災
災害報道	文化活動を通じた安心地域づくり
ボランティア	被災者支援と法・行政復興都市計画の展開
被災者支援と法・行政	震災資料の保存と歴史資産を活用した文化形成
復興都市計画の展開	
減災とは	

- 震災翌年より現在に至るまで開講
(内容は2007年度のもの)

神戸大学ボランティア講座

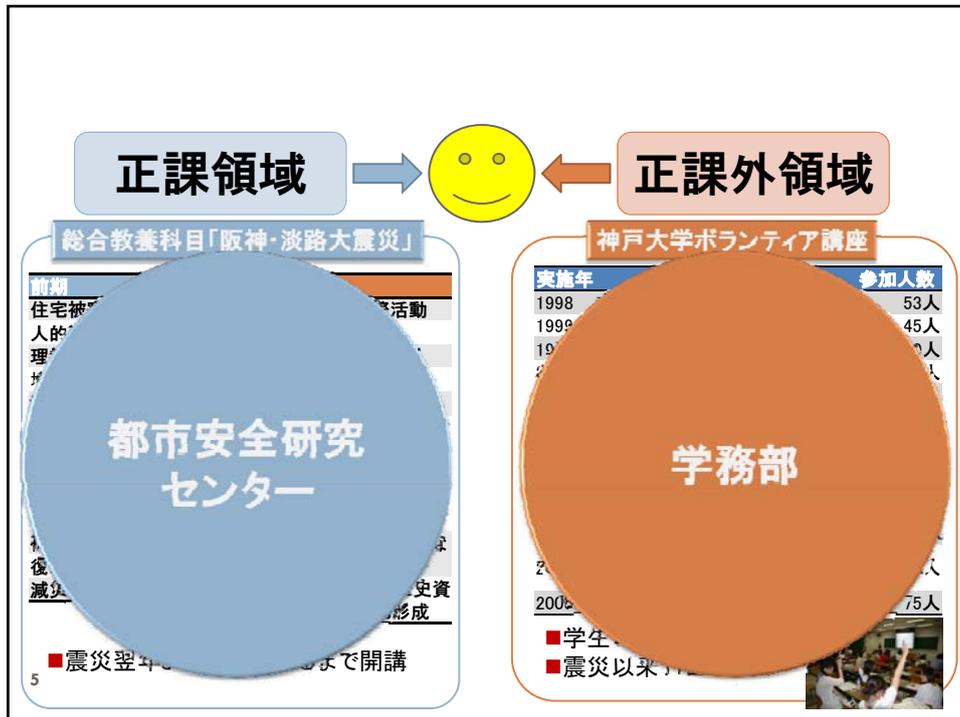
実施年	テーマ	参加人数
1998	ボランティアの理論と実習	53人
1999	ボランティアの理論と実習	45人
1999	ボランティアとは？他	50人
2000	ボランティアとは？他	40人
2001	学校におけるボランティア活動の導入等について他	43人
2003	ボランティアの社会的意味他	66人
2004	「生き難さ」ってなんだろう・・・？	107人
2005	震災10年、社会のひずみは埋まったか	59人
2006	まちづくり	42人
2007	ボランティアから見えてくる生き方	42人
2008	社会的排除と市民活動	75人

- 学生も運営に参画
- 震災以来11回開催



体系的

実績



現代GPの成果としての学生支援GP

- 2007年1月26日 現代GP「震災教育システムの開発と普及」の一環として、震災教育のユーザーとなる学生の意見を聴取するために＜災害文化を伝え・創る学生の集い＞を開催
- 2007年9月16～17日 神戸大学で「第6回防災ユースフォーラム」を開催。関西と関東の防災・災害救援に取り組む学生同士の交流を図る。フォーラム最後の学生によるパネルディスカッションで、神戸大学については、学生のボランティア活動支援のための専門職員を擁した窓口の必要性が指摘された

共生的人間力とは？

近年、「ニート」「フリーター」などが社会的課題として取り上げられています。神戸大学の学生も、卒業後は正社員として雇用されなければ生活は厳しく、正社員となっても、激しい競争にさらされます。そのため在学中から、いわゆる「勝ち組」となるために時間を費やさざるを得ない学生が増えています。しかし今日、学生が社会から求められているのは、そのような状況を真摯に問い直し、より良い社会を自由に構想し、協同で実現する力「共生的人間力」です。本事業では、神戸大学の学生自身による共生・減災に資する活動を支援することで、大学のモットー「真摯・自由・協同」に基づく「共生的人間力」を養うことを目的としています。



中越・KOBЕ足湯隊として、能登半島地震の被災者に対する足湯活動に取り組む学生

真摯な共感力

幅広い世代の、多様な社会的背景を持つ他者の立場について、先入観なしに共感し、理解する能力

自由な創造力

限界の見えていない、既存の枠組みや評価軸そのものを超えて、新たな手法や、価値観を創造する能力

多様な人々との協同力

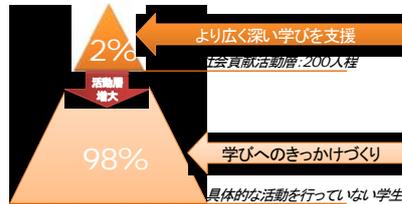
他者との社会的な立場・役割の違い、文化的な違いを理解しつつ、力を合わせることでできる能力

共生的人間力



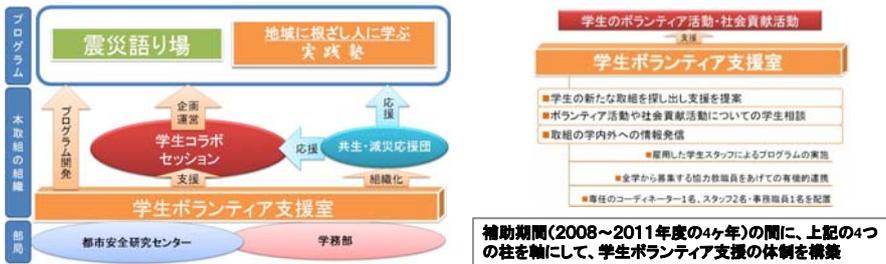
ボランティア講座の実習（高齢者分野）で、神戸市長田区の高齢者との交流する学生

神戸大学では、阪神・淡路大震災の前後より、社会的課題に対して積極的に取り組む学生団体が増加してきました。しかし、そのような活動に取り組む学生は、学内では未だ少数とも言えます。そこで本プロジェクトでは、これらの活動に取り組む学生に対する支援を通じ、学内全体に社会活動に取り組む気運を高め、共生的人間力を備えた学生層の拡大を図ります。



学生支援GP「地域に根ざし人に学ぶ 共生的人間力」プロジェクト概要

- 1 学外の「人に学ぶ」、その「人」の組織化 共生・減災応援団
- 2 既に活動している学生の交流・連携の推進 学生コラボセッション
- 3 学生社会貢献活動の常設サポート組織 学生ボランティア支援室
- 4 地域に根ざし人に学ぶプログラムの開発 震災語り場・実践塾



2年間の取組紹介

講演会・震災語り場・ワークショップ

佐用町水害への取組

お熊甲祭への参加

相談活動

その他の取組



各種講演会

■2008年秋から2009年10月までに、支援室が主催または学生団体との共催という形で、計11回の講演会を実施してきました。また2009年2月に行われた神戸大学ボランティア講座にも、主催団体の一つとして協力しました。支援室では、学生による講演会やイベントの提案を受け、支援を行っています。



震災語り場



■2008年12月7日、震災後の兵庫・長田の町を写真で記録し続けている和田幹司さんの案内で「被災地・長田のまちを歩く～大震災から14年、まちづくりの軌跡～」を実施。翌年には「震災発、産業の軌跡」とテーマを変え、12月21日に実施しました。



講演会・まち歩き・ワークショップ

社会貢献活動・ボランティア活動新歓説明会 「ボランティアへの誘い」



■2009年4月5日、神戸大学百年記念館の六甲ホールにて、学生ボランティア支援室の主催で、新入生向けの社会貢献・ボランティア活動説明会「ボランティアへの誘い」が開催されました。2010年も4月11日に実施の予定です。

震災の記憶をつなぐパネル展示



■2009年1月13日から16日にかけて、神戸大学工学部キャンパスにある「うりポーロード」にて、「阪神・淡路大震災と神大生の14年」と題したパネル展示を行いました。遊歩道に並んだ34枚のパネルを学生や地域の方が見つめました。2010年1月12日～22日には、同様の趣旨で、国際文化学部A棟1階で実施しました。

【中越・中越沖地震被災地編】

■2008年度神戸大学ボランティア講座に参加した学生のうち、中越・中越沖地震の被災地での実習「被災地の復興と被災者の生活再建」分野に10名が参加しました。2009年2月23日から27日まで、4泊5日の実習では、柏崎市内の仮設住宅や障害者作業所において交流活動や足湯ボランティア、雪かき作業等を行ったほか、旧山古志村の復興の様子を見学しました。



【神戸・外国人編】

■2009年7月25日から9月2日にかけて、神戸に暮らす定住外国人をテーマとした実習を行いました。事前学習会を実施した後、長田区にて学習支援活動に取り組む“moi”にて、学習支援活動に参加。その後、長田区内の在日コリアンをテーマとしたフィールドワークを実施。最終日は、神戸市北野のフィールドワークと、神戸のベトナム難民についてのレクチャーを受けました。



地域に根差し人に学ぶ実践塾

【能登半島地震被災地編】

■2009年8月実施。2007年3月発災の能登半島地震被災地で、復興の課題と地域の魅力を発見するためのフィールドワークを実施しました。現地の農業、まちづくりの課題を実地に体験。復興住宅の方々との交流など。期間中、金沢大学や長岡技術科学大学の学生とも交流を行いました。



【大阪・釜ヶ崎編】



■2009年8月実施。大阪の釜ヶ崎で、日雇い労働と野宿の問題について、フィールドワークを実施しました。また西成公園テント村で、そこに住んでいる方々と交流しました。最終日は、大阪城公園で、社会運動の表現手段としてのパベット制作に参加、パベットを持って、市内をパレードしました。

佐用町水害への取組

- 佐用町での、学生の「足湯ボランティア活動」の実施を支援。佐用町きらめき復興支援センター(社会福祉協議会)などと連携
- 現在までに佐用町郵便局・仮設住宅などで実施
- 3月9～11日にかけてボランティア講座の実習で訪問予定



学生から寄せられた相談内容の事例

【登録団体からの相談】

- ・イベント等のための会場を借りたいが、どうしたらよいか？
- ・イベントのためのポスターやビラの印刷をしたいので、輪転機やプリンターを借りたい。
- ・機材を貸してほしい。(ビデオカメラ、プロジェクター、スクリーン、ICレコーダー)
- ・社会起業に関するイベントを実施したいので、支援してほしい。
- ・講演会を行いたい、講師謝金や会場使用料の負担してほしい。
- ・講演会を行いたい、適切な講師を紹介してほしい。
- ・団体の看板を作りたいが、作り方を教えてほしい。
- ・ビラの作り方が難しいので教えてほしい。
- ・助成金を申請したいので、情報が欲しい。申請を手伝ってほしい。

【個人からの相談】

- ・環境系のボランティア活動を紹介してほしい。
- ・農業に関わるボランティア活動を紹介してほしい。
- ・入院児童に関わるボランティア活動をしたいが、近くにそういう活動をしている団体はあるか？
- ・ボランティアグループを立ち上げたいが、どうやってメンバーを集めたらよいか？
- ・漠然とボランティア活動に関心があるが、自分に合う活動はあるか？
- ・教員採用試験を受ける上で、ボランティア活動を経験してみたいがどうしたらいいか？
- ・ボランティアについてのレポートを書きたいが、ボランティア論全般について教えてほしい。
- ・イベントや活動に関する情報を、メールニュースやメーリングリストで広報してほしい。
- ・地元のボランティア団体を調べているが、どんな団体があるか教えてほしい。



支援室による学生支援の実績

- ボランティアに関する情報を掲載したパンフレットの作成し、2009年度の全新生に配布。
- 社会貢献活動に取り組む学生へのインタビューを行い、支援室HPに掲載。(随時)
- メールニュースやメーリングリストを通じ情報発信。(随時)
- 2009年7月12日に開催された学生イベント「社会起業家支援サミットin兵庫」への支援。
- 外国人の子どもたちに学習支援を行うグループ「モモ」への支援。
- ストリートダンスサークル「JETTER」が取り組む清掃活動に関して、灘区役所の担当部署を紹介し、協力を求めた。
- 途上国への給食支援事業に取り組むグループ「TFT」に対して、活動の立ち上げや事業計画の立案に関する支援。
- 石川県中島町の伝統行事「お熊甲祭」における「裃旗」の担ぎ手を学生から募集し、神戸学院大学や被災地NGO協働センターのメンバーとともに、「裃旗」を担ぐ行事に参加(2009年9月20日)。
- 2009年8月の兵庫県佐用町水善の被災地に入る学生ボランティアの活動を支援。(2009年8月～)



登録団体一覧

- ・アイセック神戸大学委員会(海外インターンシップ支援)
- ・学生防災救援隊(災害ボランティア・地域活動)
- ・灘地域活動センター(復興住宅支援)
- ・SESCO(社会起業家支援サミットin兵庫)
- ・総合ボランティアセンター(ボランティア活動全般)
- ・総合ボランティアセンター まーくん☆チームセクション
- ・総合ボランティアセンター 生田川児童館セクション
- ・灘チャレンジ実行委員会(地域イベント)
- ・外国から来た子どもの学習支援ボランティア団体「モモ」
- ・Truss(留学生支援)
- ・ニュースネット委員会(学生新聞)
- ・神大モダン・ドン・チキ(チンドン屋)
- ・徹夜祭実行委員会(学園祭)
- ・六甲祭実行委員会(学園祭)
- ・PEPUP(フェアトレード)(※近日登録予定)
- ・ECORO(環境活動)(※近日登録予定)

※2009年10月20日現在

学生支援GP運営委員一覧

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 是川哲秀 | ひょうごボランティアプラザ事務局長 |
| 染谷哲也 | 神戸市市民参画推進局地域力強化推進課主幹 |
| 岩崎信彦 | 神戸大学地域連携センター特別研究員(名誉教授) |
| 飛田雄一 | 財団法人神戸学生青年センター館長 |
| 村井雅清 | 被災地NGO協働センター代表 |
| 村上桂太郎 | 特定非営利活動法人多言語センターFACIL職員 |
| 石田憲治 | 神戸大学海事科学研究科/
附属国際海事教育センター教授 |
| 瀬口椰子 | 神戸大学国際交流推進本部特命教授 |
| 朴 鐘祐 | 神戸大学留学生センター准教授 |
| ロニー・アレキサンダー | 神戸大学国際協力研究科教授 |
| 鈴木純 | 神戸大学経済学研究科准教授/学生委員 |
| 岩山隆寛 | 神戸大学理学研究科准教授/学生委員 |
| 内田正博 | 神戸大学国際文化研究科教授/キャリアセンター長 |
| 敏藤広志 | 神戸大学学務部学生生活課長 |
| 有木康雄 | 神戸大学都市安全研究センターセンター長 |
| 田中泰雄 | 神戸大学都市安全研究センター教授 |
| 藤室玲治 | 神戸大学都市安全研究センター学術推進研究員 |

発展的取組

社会的起業研究会
被災地交流研究会

発展的取組①：社会的起業研究会

20

- 目的：市民・教職員・学生が集まり、大学を拠点としたCB・社会的起業支援のあり方を模索。地域ごとに現れる問題群を普遍性のある社会的課題として解決するための、新しい地域連携の枠組み構築を目指す。
- 概要：以下の二つのタイプの研究会を実施し、CB・社会的起業に関する学内外・地域のネットワークを構築
 - ①被災地交流研究会：災害復興におけるCB（CBIに繋がる取り組みも含む）の役割と課題を議論
 - ②社会的起業研究会
- 背景：学生の間での「社会的起業」への関心の高まり

2年間の総括と今後の課題

【学生支援として】

- ・より広い学生層へのアプローチ
- ・組織的体制の構築

【発展的な課題】

- ・正課との連携
- ・研究活動との連携

学生支援としての課題

□ より広い学生層へのアピール

支援室の開設・学生団体の登録・各種講座や実践塾の開催・メールニュースの配信など、基本的な支援体制は整ったが、まだまだ学内での知名度も高いとはいえず、**より広い学生層へのアピール**が必要

□ 組織的体制の構築

既存の学生サークルへの支援や、個人の相談に乗る以外に、学生ボランティアを地域につなげる、**組織的体制の構築(仕組みの開発)**が必要である

発展的な課題

□ 発展的な課題

【正課との連携】学生支援GPは、課外活動支援であり、正課の授業の開講などが目的ではないが、その**成果を、正課の教育につなげる**必要がある

【研究活動との連携】学生ボランティアの活動と研究活動とが連携する形も考えなくてはならない。特に都市安全研究センターとしては、**学生の災害ボランティア活動と連携し、被災地の復興などに研究と実践において、貢献**しうような展開が望ましい

総合教養科目「阪神・淡路大震災」との連携

H22～23 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(前期・後期)

H22～23:現場で活動している実践者を講師に加え、内容をより実践的・社会貢献的なものにシフト

H24～①「災害と自然・社会」

- ・「減災と防災」等のタイトルも可
- ・原点としての阪神・淡路大震災のことは必ず内容に入れるが、国内外の他の災害も視野に入れる
- ・自然科学系・社会科学系・人文系のバランス、学者・行政・民間のバランスを引き続き考慮
- ・都市安全研究センター以外(学内他部局・学外)の力に負うところが大きい、センター中心の取りまとめで実施が適当

H24～②「社会貢献・ボランティア活動と社会的起業」

- ・福祉ボランティア活動から企業の社会的責任(CSR)、社会的起業まで取り扱う
- ・現場実習やインターンと組み合わせると良いが、方法は要検討(今ある課外活動支援枠でのボランティア講座・実践塾などの取組の正課化)
- ・当センターも「災害ボランティア」「防災・減災の取組」などで関与するが、必ずしも中心ではない?

①についてはセンター中心に実施、

②についての実施主体を学生支援GPと社会的起業研究会の取組を通して模索
・意義と内容・実施体制・財源がクリアできれば、H23.7までに教養教育部会の承認を経て、H24より開講可能
・前期に①、後期に②を開講といった形も考えられるし、①②ともに前期も後期も開講することもありえる